

夢、私たちに。 わたしのひとこと



介護と福祉

飯森 窪田 千冬

九年前に妻は畑で突然倒れ近くにいた方々に助けてもらい救急車で大町病院へ。診断は脳梗塞。改善の様子が見られず途方に暮れ、村社会福祉センターに相談。担当者から親切なお話が聞けました。その後幸いにも鹿教湯病院への転院が決まり介護専用自動車を貸して頂けるということで、私が運転し転院することができました。主治医の話によると「食事は経管栄養（胃ろう）、又早い内に外泊しない」と云われ、介護ベッドと介護専用車を借り2泊3日の外泊が出来ました。半年にお蔭さまで3回の外泊が出来ました。

※不思議に感じたのは、妻は障がい者の認定を受け村の福祉協会費を納めたのに、有料道路減免の対象にならなかった事。いったい協会の事業会計はどうなっているのかな？

四年間の介護生活が終わりました。残念です。広域連合介護福祉課には大変お世話になりました。

健康が第一！



人口増加と食糧

エコランド 太谷 修助

1分に152人、1日に22万人、1年で8000万人増加して、2010年10月には世界の人口は69億人。アジアとアフリカで異常に増えているこの現実。先進国は減少に転じているのに。このままいくと2050年には91億人とか。

心配なのは食糧自給率が40%、残りの60%を貧しい発展途上国の、しかも日本の3倍の耕地面積に大切な水と土地を使って、日本人の食糧を賄ってもらっている。

優秀な食糧生産能力を持っている日本人が大切な田畑を放棄し、発展途上国の人と競って食糧の奪い合いをしているこの実態を、可笑しい構図だと言え無くなる現実がすぐそこで迫っています。他国の食糧なんか構っていらなくなるのです。お百姓さんを生かさず殺さずの無策な農業政策が原因です。

水も空気も美味しいこの白馬だけはそうならない様に休耕地活用をして、子どもや孫たちの為に、ひいては、白馬を訪れるビジターの皆さんのためにも、ちょっと考えてみませんか。



生活と観光の共存

青鬼 松沢 直城

今は青鬼で特産品の紫米を栽培しながら生活しております。

青鬼地区が国の重要伝統的建造物群保存（重伝建）地区に選定されたのは、平成12年12月4日であり、今年で選定10年を迎えます。選定以来、観光客が訪れるようになり、近年増加の一途をたどっております。観光客の中にはマナーの良くない人もおり、住民との軋轢が生じることもあります。

青鬼は観光地ではなく古くからの農村集落であり、住民はそこに住居を構え、観光に頼らずに農業などを中心に生活を営んでおります。

福島県の大内宿など多くの重伝建地区に見られるように観光客を利用し、選定の副産物である利益を得ているところが少なくありません。しかし、青鬼は現段階では観光客による利益がほとんどありません。

今後も景観と文化を守り続けていかなければなりません、高齢化、観光客の増加が進む中で、生活と観光をいかに共存させていくかが今後の大きな課題です。

編集後記

錦秋の白馬を思う存分に歩いてみたい。ついては、どこか適当な宿を世話してほしい。毎年のことではあるが、東京の旧友たちから、こんな注文が何件か舞い込んでくる。うれしい限りだ。

信州DCキャンペーンが始まったばかり。私なりの「白馬だより」をしたためつつ、最新の白馬村観光局だよりを送る。この時ばかりは、期間限定にわか観光大使となる。もてなしの心の大切さを改めて痛感する。旅人のみなさん、秋の信州芸術祭参加作品「白馬」を是非ご鑑賞ください。

小林英雄 記

議会報調査編集特別委員会

議長	下川 正剛
委員長	田中 榮一
副委員長	太田 伸子
委員	横田 孝穂
委員	太田 修
委員	小林 英雄
委員	太谷 正治